

群馬県立板倉高等学校 日本語指導を基盤とした外国人生徒等への支援体制づくり

日本語指導については、令和5年度から始まり、今年度より「日本語指導を基盤とした外国人生徒等への支援」事業の実践校として、県教育委員会、日本語指導支援員と連携しながら、日本語指導体制の定着に向けて実践している。

本校における日本語指導は、①1学年学校設定科目「チャレンジタイムⅠ」による指導、②金曜日放課後の希望制補習である。

「チャレンジタイムⅠ」では、進路選択へ向けて資格取得のための学習を行っている。国語（日本漢字能力検定へ向けた学習）、英語（実用英語技能検定へ向けた学習）、情報（パソコンの技能、知識の学習及びビジネス文書検定へ向けた学習）の3つの分野を、1コマずつ国語→英語→情報の順で学習していく。

① 1学年学校設定科目「チャレンジタイムⅠ」国語の授業時間による指導

- ・指導対象者は、外国人等入学者選抜で入学した生徒、および日本語を母語としない生徒のうち希望者で実施している。令和7年度は8名。
- ・授業は、国語科教員と日本語指導支援員によるチームティーチングで行っている。



② 金曜日放課後希望制補習

- ・日本語指導支援小員会、日本語指導支援員による指導支援を行っている。
- ・希望生徒は、主体的に参加している。
- ・教材は、静岡県国際支援協会作成の「オレンジドリル」、独自教材「日本語指導ワークシート」を使用し、音読と読解の支援をしている。

